



国際審判員 隈元幸治(神奈川県ボート協会)

## 第16回アジア競技大会審判参加報告

### 1 はじめに

中国・広州で開催されました第16回アジア競技大会にARF審判員として派遣され、審判業務を行なってきましたので、次のとおり報告します。

大会は、OCA（アジアオリンピック評議会）が主催するもので、オリンピックと同様に、4年ごとに開催されます。今回は、中国・広州市が開催場所であり、前回は、カタール・ドーハで開催された大会には、JARA国際委員として参加しましたが、今回は、審判員として初めて参加する機会を与えていただきました。また、日本からは東乙比古審判員（北海道ボート協会）も参加しました。

### 2 大会概要

- ① 開催場所：中国 広東省広州市
- ② 広州市： 人口：約1000万人、面積：7434平方キロメートル
- ③ 競技会場：International Rowing Centre(人造湖)  
白雲国際空港から車で30分程度の場所、選手村から約70km  
コース 延長：2500m、幅162m、水深2.5～3m
- ④ 参加国・地域 23国・地域
- ⑤ 競技種目：14種目  
グループⅠ：W2×、M2×、LW2×、LM2×、W4-、M4-、  
LM4-  
グループⅡ：W1×、M1×、LW1×、LM1×、W2-、LW4×、  
M8+
- ⑥ 日本チームの出漕種目：5種目  
LM1×、LW1×、LM2×、LW2×、LM4-

### 3 開会式

アジア大会は総合競技大会として、オリンピックと同様に、総合開会式が開催されることから、審判員も参加できる機会を得ました。会場は、広州市中心部、珠江にある島「海心沙」で開催され、私たち審判員は、スタンド最前列で観戦することができました。

北京オリンピックの開会式と同様に、スケール感あふれる壮大なショーが展開され、感動しました。



参加国国旗



聖火点灯



空港周辺道路歓迎装飾

#### 4 参加審判員

FISA Delegate: Mike Tanner

ARF 審判長: Nicholas Ee のもとで、

16名の審判員が参加して、大会の審判業務を行いました。

①LIU Hehai (CHN)	1504
②LI Zhigang (CHN)	1355
③WONG Hang Tim Candy (HGK)	1519
④Sevara GANIVERA (UZB)	1579
⑤Edy SUYONO (INA)	1297
⑥Ashok MEHTA (IND)	1537
⑦CANDATHIL Chacko (IND)	1392

⑧AZUMA Otohiko(JPN)	1232
⑨KUMAMOTO Koji(JPN)	1371
⑩LIANG Bing(CHN)	1503
⑪Abdal Malic Bin Hi ABDUL CHANI(MAS)	1298
⑫Razemin OMAR(SIN)	1556
⑬NGYUEN HAI Duong(VIE)	1457
⑭Tran Thi Hong Bich(VIE)	1580
⑮HUANG Rucong(CHN)	1461
⑯Xie Degang(CHN)	1123



参加審判員

## 5 会場・施設



スタートタワー

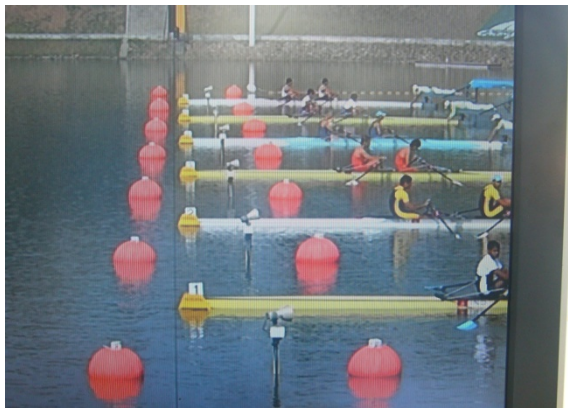


スタートポンツーン

スタートシステム



艇首固定装置



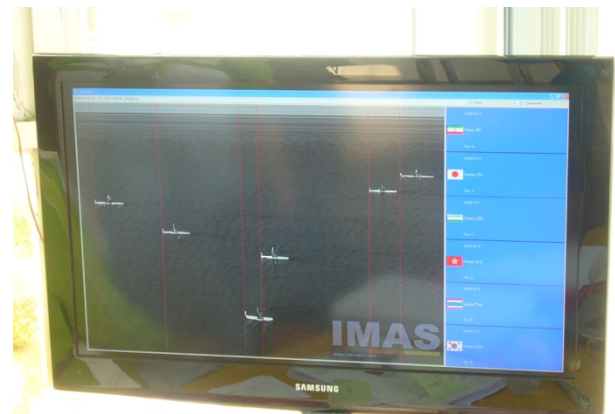
線審モニター画面



線審操作システム



フィニッシュタワー



フォトフィニッシュ画面



出・帰艇ポンツーン



中間計時タワー



艇計量所



選手計量所



主審艇（6艇配置）



審判長、判定員とスタッフ



コース全景（8レーン+回漕レーン）



July Meeting

（毎朝、審判資格更新のためのセミナーが分割して行われた）

## 6 競技スケジュール

11月14日(日)	:グループI予選	9レース
11月15日(月)	:グループII予選	10レース
11月16日(火)	:グループI敗者復活	4レース
11月17日(水)	:グループII敗者復活	4レース
11月18日(木)	:グループI決勝	10レース
11月19日(金)	:グループII決勝	11レース
		計48レース

## 7 担当審判業務

14日	M4
15日	監視イン
16日	M5
17日	選手計量
18日	線審
19日	判定長

## 8 審判業務における出来事

- ① 16日の選手計量において、北朝鮮(PRK)のLW2×が規定重量不足(平均で0.1KG不足)で失格となった。(東審判員担当)  
このクルーは14日の予選では、計量をパスしていた。
- ② 17日の選手計量において、IOC(クウェート)のLM1×の選手が、規定計量時間を過ぎても計量に来ず失格となった。当該選手は20分後に計量所に来たので、失格を通告した。監督は、選手村からのバスが渋滞で遅れたと理由を説明し、配慮を申し入れたが、ルールを説明し、申し入れを拒否した。(隈元審判員担当)  
※会場と選手村は70km離れており、1・5時間かかるとのこと
- ③ 17日のレースにおいて、IOC(クウェート)のM1×の選手が、遅れて会場に到着し(②と同じような事情)出艇したが、スタート時刻に遅れ、DNSとなった。スタート時点では、当該クルーは500m付近におり、その状況は、コース待機の主審から、審判長やスタートには伝達されており、その上での判断であった。
- ④ 16日のレースにおいて、フィリピンのLM1×の選手に、監視インで艇計量を指示したが、後で計量を受けていないことがわかった。計量指示は確実におこなっていたことから、次のレースのスタート時にイエロカードを付与。また、レース終了後、艇の計量を実施(計量パス)  
※地元審判補助員に艇の誘導を指示したが、計量しなかった。理由は不明

- ⑤レースに追航する主審艇のラダーが故障して、レースに追航できず、スタート付近のブイに激突。レースは待機艇により対応。(主審艇は6艇配置され、レースを運営)

## 9 日本代表の競技結果

日本からは、軽量級5種目に参加し、金2個・銀2個・銅1個のメダルを取得する活躍であった。

他の種目では、中国の強さが際立っていたが、インドやイランの活躍も目立った。

LM1×	武田選手	2位(1位:イランの選手、2010年U23優勝者)
LW1×	若井選手	1位
LM2×		3位
LW2×		2位
LM4-		1位(ドーハ大会に続き、2連覇)



### LM4-メダルセレモニー

## 10 ARF総会

JARA総務委員(国際担当)の千田さんとともに、ARFの総会に参加しました。

会議では、予算、決算、活動報告などが行われた。また、ARF役員の改選も行われ、会長には韓国のLee Jong-Chul氏がイランのAhmad Donyamali氏との投票に勝ち、新しいARF会長に選出された。

Lee Jong-Chul氏は韓国企業の会長を務めており、韓国のグローバル企業をスポンサー提携して、ARFの発展に向けたビジョンと強い意志を表明した。また、韓国では、今後5年間続けて、国際大会を開催する予定であり、これらのイベントを通じて、ARFの発展に向けた強いメッセージが発せられた。

また、副会長は、3回に及ぶ投票により、マレーシア・中国・インドが選出



された。

**【今後、韓国で開催される国際大会】**

2011年 アジア・アジアジュニア選手権（華川）

2012年 オリンピックアジア大陸予選（忠州）

2013年 世界選手権（忠州）

2014年 アジア競技大会（仁川）

2015年 ユニバシールド（光州）



ARF総会（前方にARF役員）



ARF総会（各加盟国代表）



選出された新ARF会長のLee氏（韓国）

**10 おわりに**

総合競技大会であることから、組織委員会もしっかりしており、大会運営、空港の送迎、宿泊施設、会場への交通等、いずれも素晴らしいものでした。

また、IDカードで広州市内の地下鉄などが無料で利用できるなど、レース終了後のオフ時間での市内観光に大変役立ちました。

はじめてのアジア競技大会でしたが、このような大きな大会を日本でも開催されるのを期待したいものです。

今大会では、FISA 国際審判員試験が開催され、日本ボート協会から松田雅彦審判員(神奈川県ボート協会)が受験し、見事合格しました。これで、日本の国際審判員は13名となり、ARF加盟国では、国際審判員の数が一番多く、今後の国際大会での活躍が期待されるところです。

今回、アジア競技大会への参加の機会を与えていただきました日本ボート協会小林審判長、千田総務委員(国際担当)、小森事務局長など、関係の皆さまに感謝いたします。